

### 4 地域の歴史をヒントに国際紛争や平和について考えさせる授業展開例

教科(科目)	世界史 A	単元名	二つの世界戦争と平和 (7時間目 / 7時)	
本時の主題	第二次世界大戦 中国の植民地化(日本の満州進出)と戦争を考える			
本時の目標	<p>1 郡上郡の人々が満州開拓団に数多く参加した事実を理解し、日本の満州進出の状況がそのようなものであったかを考える。【思考・判断】</p> <p>2 第二次世界大戦の末期に、後に戦勝国となる国々によって戦後の国際秩序の枠組みが形成されたことを理解する。【知識・理解】</p> <p>3 国家の海外発展(植民地進出)が、末端の人々の人生や生命に多大な影響を及ぼし、また、戦争による敗北が生んだ悲劇や進出に及んだ事情を理解し、現代社会における日本や日本人の役割を考える。【思考・判断】</p>			
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価		
<p>・「郡上満州開拓団」から、植民地化が進む中国の様子と、日本と中国の関係を考え、理解するとともに、当時の日本が海外発展しようとした理由の一端を考察する。</p> <p>15分(経過時間)</p>	<p>満州開拓団が持つ意味の考察と理解。( )</p> <p>導入：郡上高校の校訓「凌霜」が決められるときのエピソードを紹介</p> <p><b>Question 1</b> 多数の郡上郡民が、なぜ満州開拓団に参加したのか。その意味は？ また、「分村」「分郡」とはどういう意味を持つのか？</p> <p>…導き出させる答え A：「国策としての開拓」 日本の海外進出が国の政策として実施されていたことを理解する。 B：「耕地面積が少ない、二・三男の働き口」 開拓団は、生活の向上・雇用の創出も大きな目的であったことを理解し、そこから当時の日本経済と食糧事情の悪さを判断する。 C：「分郡」「分村」ということは、満州は日本の国内(領土)として考えていた。</p>	<p>Q1については、郡内の町村史を読ませ、興味・関心を引き出しながら、その中に書かれている正解を探させる。【思】 評価方法 発問・挙手・発表</p>		
<p>・「開拓団員の手記」から、宗主国と被植民地の立場、そして、その逆転が意味する事柄を考えさせる。</p> <p>25分</p>	<p>敗戦によって勝者と敗者が逆転することの理解。( ) 終戦によって一変する日本の国際的立場の理解。( )</p> <p><b>Question 2</b> 「一俵5円だった船賃が100円」になったり、「満人の子どもたちが唾を吐きかけ」たりしたのはなぜか。その意味は？</p> <p>中国において日本人は、敗戦により「支配者から被支配者」または「尊重される側から蔑まれる側」に立たされたことを感じ、それは命の危険を生み出したことを知る。 ひいては、大戦後の日本の国際的立場も逆転することに気付く。</p>	<p>Q2については、発問し、自発的に考え、中国の人々の心情を推測し発表する。【思】 評価方法 発問・挙手・発表</p>		
<p>・戦争の過程で、戦後の国際秩序の青写真がつけられたことを理解する。</p> <p>40分</p>	<p>ソ連軍による満州・朝鮮及び北方領土占領が持つ意味の理解。 …「開拓団員の手記」から、大戦末期ソ連軍が南下したことを理解する。</p> <p><b>Question 3</b> ( ) なぜ、ソ連は日ソ中立条約を無視して参戦したのか？</p> <p>ヤルタ協定(対日秘密協定)でソ連の対日参戦と、千島・南樺太領有を戦勝国側で決められていた。 <b>発展</b> このヤルタ会談での話し合いが、戦後の国際秩序の構築につながることを理解するとともに、ソ連の中国・朝鮮への出兵が、戦後の冷戦構造につながっていることを知る。</p>	<p>Q3については、ヤルタ会談の資料から答えを誘導する。</p> <p>日ソ中立条約及びヤルタ会談(協定)にて確認。</p> <p><b>発展</b>については、ソ連の参戦の動きが、アメリカの「原爆投下」や日本の敗戦につながったことを考える。【知】</p>		

<p>・まとめ …この単元(6時間)の学習を終えて。  50分・</p>	<p><b>Question 4</b> ( ) 21世紀に生きる人間(日本人)として、戦争や平和について考え、日本(日本人)の役割について思うところを述べてみよう。  この時間内では日本のとった行為(中国の植民地化)についての意見を求める。  Q4について、自分の意見を文章にまとめさせる。</p>	<p>については、答えを示さず、生徒が感じたまま、考えたままを発表させる。【思】 評価方法 発問・挙手・発表  については、のクラスメイトの意見を参考にしながら、自分の考えを小論文にまとめ、宿題にし、次時に提出させる。【思】 評価方法 小論文の提出 3段階で評価</p>
--	--	---

<指導上のポイントと考察>

新学習指導要領の基本的性格や目標に書かれているように、「日本人にとっての世界史」という観点に立ってこの授業を考えた。特に、前回同様「郡上を起点に世界史を観る」というテーマから、自分たちの地域の歴史を辿ることで、世界史や国際社会の在り方を理解することにつなげたい。

今回の単元では「現代世界と日本」の「イ：二つの世界戦争と平和」の最終段階として、位置づけた。ここでは、戦争が起こる一つの原因が各国の海外進出(発展)とそれによる他国・他民族との対立にあることから、中国における列強の進出と対立を、日本の満州進出を題材に捉えようとした。また、日本がなぜ、植民地政策を推進したのか、そこで日本人はなにをしたのか、それが中国など植民地となった国の人々にとってはどうであったのか、など植民地進出による両国国民が受けた苦しみを理解したい。

後半は、戦後の国際秩序(戦勝国による国際秩序)や冷戦構造が、大戦の過程で生じて来る事に気付かせ、それが日本への原爆使用や占領政策に繋がっていることへと発展させる。

最後に小論文を書かせるが、単に感想文に終わらないように最近の国際情勢や日本の置かれている立場をふまえて自分の考えを述べさせる。また、小論文を書かせることで自分の考えをまとめたり表現したりする力を付けさせたい。

以上のことから戦争と平和の意義について生徒とともに考えたいと思う。

<単元の計画> 二つの世界大戦

- ・ 第一次世界大戦 1時間
- ・ ロシア革命と第一次世界大戦の結果 1時間
- ・ ヴェルサイユ体制 1時間
- ・ 民族主義の新展開 1時間
- ・ ファシズムの台頭 1時間
- ・ 第二次世界大戦 1時間
- ・ 中国の植民地化と戦争を考える 1時間

【資料編】

ア：郡上高校校訓「凌霜」選考時のエピソード  
- 郡上高校校訓「凌霜」 -

郡上高校のの校訓である「凌霜」と、いうことは、次のような歴史を持つことばである。

- ・ 戊辰戦争の時、郡上(青山)藩は表向きは官軍側についたが、万が一のために裏で旧幕府軍の援軍として、江戸藩邸より小隊を派遣した。これを「凌霜隊」という。
- ・ 戦時中の満州開拓団の養成施設、「凌霜塾」の名としても使われた。

郡上高校の校訓「凌霜」を選考するときに、「郡民が辛酸をなめることになった満州開拓の推進の中心的存在だった『凌霜塾』の名は使わない方がいい」という意見があった。

(郡上高校勤続24年の教員より聞く)



- 「凌霜塾」について -

昭和 7 年(1932)に満州国の建国宣言が行われ、昭和 9 年には満州国に帝政が実施され、皇位には清朝後裔の溥儀が就いた。日本政府はこの頃より、満州殖産政策を推進し、殊に昭和12年から20年間に百万戸・5 百万人の大量開拓移民計画を樹立して実施に着手した。

昭和恐慌後の農山村は窮乏がその極に達していた。農山村の窮乏の根本的な原因は、は経営面積の過少(50~70a)であったから、国策としての満州開拓は、満州の広大な広野に営農ができるという点で青少年に夢を与えるものであった。

郡上郡青年団では、昭和 9 年皇太子殿下御降誕を記念して、修養道場「凌霜塾堂」の建設を発願し、.....昭和 11 年には研修道場「積翠寮」も完成した。「拝み・働き・学ぶ」という楠章凌霜塾頭の提唱による労作教育は各界に共感を呼び、.....(『郡上郡の歴史』より)

イ：郡上郡民による満州開拓団

『大和町史』第 9 節 満州移民

満州開拓の始まり

満州事変の起きた翌年の昭和 7 年(1932)満州国が建国され、この年から日本の満州開拓移民の入植が始まった。その目的は、(1)農村の二・三男対策、(2)日本軍の食糧確保、(3)大陸最北前線の軍事的防備などであった。...日本政府は、はじめ 5 カ年に 2 万戸移民の計画を立てたが、昭和 1 2 年(1937)以降 2 0 カ年で 1 0 0 万戸という大計画を立てた。そして、政府より扱いの集団開拓民と、民間の行う自由開拓民に分け、...

岐阜県の満州開拓移民

岐阜県は全県の 8 割が山間地であり、耕地面積は少なく、昭和の初め頃、1 戸当たりの平均耕作面積は平野部で約 7 反(70a)、山間部では 5 反(50a)未満であった。昭和11年に満州開拓移民が重要国策とされてからは、耕作面積の少ない岐阜県では特に奨励され、国庫補助による分村移民が推進された。また、昭和 1 4 年には、県に移植民専任職員がおかれた。岐阜県の満州開拓移民送り出し人員は、1 万230人で、全国都道府県中 7 番目である。ちなみに一番多い長野県は 3 万 7 8 5 9 人で、岐阜県内で多く送り出しているのは、第一に郡上郡、次に加茂郡、その他山間農村地帯の恵那郡や飛騨地方などであった。

郡上郡の満州開拓移民

郡上郡の開拓移民は、県内で最も多かった。その理由は

- (1)郡上郡は耕地面積が少ない。
  - (2)二・三男の働き口がない。
  - (3)郡出身の指導者が積極的に移民活動を奨励した。
  - (4)郡民性が従順であり、国策に協力したことなどが考えられる。
- .....郡上郡全体の移民数は 3 1 9 6 人で、...

【郡上郡開拓団】

送りだし年度	開拓団名	母村	人数
昭和 1 4	公主嶺(山路)	奥明方村	232 人
1 5	琿春高鷲	高鷲村	646 人
1 5	郡上郡	弥富村・和良村	825 人
1 6	琿春和良村	和良村	304 人
1 8	瑞穂	山田村・弥富村・西川村	111 人
1 9	西和良村	西和良村	48 人
1 9	東村	東村	129 人
1 9	積翠	八幡町	303 人
1 9	興和	相生村・嵩田村	290 人
1 9	秀真	北濃村・牛道村	115 人
合計			3003 人

【大和町満州開拓犠牲者】

字名	犠牲者数	字名	犠牲者数
徳永	1	口大間見	5
川辺	14	奥大間見	5
口神路	1	小間見	5
中神路	3	福田	3
牧	3	洞口	12
上古道	6	内ヶ谷	7
下栗須	14	有坂	5
上栗須	6	その他	11
剣	34	合計	146
万場	7		

開拓団の入植・生活・撤退

大陸に夢を託して入植した開拓団であったが、入植から現地の生活、そして昭和 2 0 年の終戦による撤退から帰国までの状況を見ると、満州開拓という遠大な国策は、多くの犠牲者を出し悲惨な結末に終わった。特に終戦による現地人の反抗や逆襲、ソ連軍の侵攻に伴う略奪や婦女に対する暴行は、さながら地獄であった。また、撤退から本国帰還に至るまでの生活では、飢えや寒さや発疹チフスなどの疫病のために、子どもや老人の多くは死んでしまった。こうした飢えをしのぐため、やむなく現地人に幼児を預ける者、現地に残って現地人と結婚する女性も多くいた。

- 「凌霜塾」について -

昭和 7 年(1932)に満州国の建国宣言が行われ、昭和 9 年には満州国に帝政が実施され、皇位には清朝後裔の溥儀が就いた。日本政府はこの頃より、満州殖産政策を推進し、殊に昭和12年から20年間に百万戸・5 百万人の大量開拓移民計画を樹立して実施に着手した。

昭和恐慌後の農山村は窮乏がその極に達していた。農山村の窮乏の根本的な原因は、は経営面積の過少(50~70a)であったから、国策としての満州開拓は、満州の広大な広野に営農ができるという点で青少年に夢を与えるものであった。

郡上郡青年団では、昭和 9 年皇太子殿下御降誕を記念して、修養道場「凌霜塾堂」の建設を発願し、.....昭和11年には研修道場「積翠寮」も完成した。「拝み・働き・学ぶ」という楠章凌霜塾頭の提唱による労作教育は各界に共感を呼び、.....(『郡上郡の歴史』より)

イ：郡上郡民による満州開拓団

『大和町史』第 9 節 満州移民

満州開拓の始まり

満州事変の起きた翌年の昭和 7 年(1932)満州国が建国され、この年から日本の満州開拓移民の入植が始まった。その目的は、(1)農村の二・三男対策、(2)日本軍の食糧確保、(3)大陸最北前線の軍事的防備などであった。...日本政府は、はじめ5カ年に2万戸移民の計画を立てたが、昭和12年(1937)以降20カ年で100万戸という大計画を立てた。そして、政府より扱いの集団開拓民と、民間の行う自由開拓民に分け、...

岐阜県の満州開拓移民

岐阜県は全県の8割が山間地であり、耕地面積は少なく、昭和の初め頃、1戸当たりの平均耕作面積は平野部で約7反(70a)、山間部では5反(50a)未満であった。昭和11年に満州開拓移民が重要国策とされてからは、耕作面積の少ない岐阜県では特に奨励され、国庫補助による分村移民が推進された。また、昭和14年には、県に移植民専任職員がおかれた。岐阜県の満州開拓移民送り出し人員は、1万230人で、全国都道府県中7番目である。ちなみに一番多い長野県は3万7859人で、岐阜県内で多く送り出しているのは、第一に郡上郡、次に加茂郡、その他山間農村地帯の恵那郡や飛騨地方などであった。

郡上郡の満州開拓移民

郡上郡の開拓移民は、県内で最も多かった。その理由は

- (1)郡上郡は耕地面積が少ない。
  - (2)二・三男の働き口がない。
  - (3)郡出身の指導者が積極的に移民活動を奨励した。
  - (4)郡民性が従順であり、国策に協力したことなどが考えられる。
- .....郡上郡全体の移民数は3196人で、...

【郡上郡開拓団】

送りだし年度	開 拓 団 名 称	母 村	人 数
昭和14	公主嶺(山路)	奥明方村	232 人
15	琿春高鷲	高鷲村	646 人
15	郡上郡	弥富村・和良村	825 人
16	琿春和良村	和良村	304 人
18	瑞 穂	山田村・弥富村・西川村	111 人
19	西和良村	西和良村	48 人
19	東 村	東村	129 人
19	積 翠	八幡町	303 人
19	興 和	相生村・嵩田村	290 人
19	秀 真	北濃村・牛道村	115 人
合計			3003 人

【大和町満州開拓犠牲者】

字 名	犠 牲 者 数	字 名	犠 牲 者 数
徳永	1	口大間見	5
川辺	14	奥大間見	5
口神路	1	小間見	5
中神路	3	福田	3
牧	3	洞口	12
上古道	6	内ヶ谷	7
下栗須	14	有坂	5
上栗須	6	その他	11
剣	34	合 計	146
万場	7		

開拓団の入植・生活・撤退

大陸に夢を託して入植した開拓団であったが、入植から現地の生活、そして昭和20年の終戦による撤退から帰国までの状況を見ると、満州開拓という遠大な国策は、多くの犠牲者を出し悲惨な結末に終わった。特に終戦による現地人の反抗や逆襲、ソ連軍の侵攻に伴う略奪や婦女に対する暴行は、さながら地獄であった。また、撤退から本国帰還に至るまでの生活では、飢えや寒さや発疹チフスなどの疫病のために、子どもや老人の多くは死んでしまった。こうした飢えをしのぐため、やむなく現地人に幼児を預ける者、現地に残って現地人と結婚する女性も多くいた。

## ウ：満州開拓団員の手記

### 興和開拓団（美並村）体験者の手記

本郡では昭和17年当時の大東亜省より満州開拓特別指導郡指導を受けて、郡内各町村の役場、産業組合、農業会が主体となって郡上拓殖協会を設立した。その目標は、郡民一体となって満州大陸の広野に、第二の郡上の分郡を建設して王道楽土を築き、併せて郡上の人口の過密の解消と食糧増産に寄与することであった。

（中略）

この地区は、北満の北西より西へ汽車で約一時間、克山県の県都である克山街より更に南へウクル河を挟んで約一時間の所である。流域一帯の排水溝をつくり、道路を盛り上げて整備して、原住民より買収した耕地と未開発の肥沃な広野であった。

（中略）

希望に胸を膨らませ大陸農法の機械営農に慣れた頃は、太平洋戦争も敗色濃厚な末期状態となり、団員の中堅の多くは召集令状を手に出征した。8月になるとソ連軍の参戦が始まり、加えて原住民の不穏な動きが現れ始めた。

8月15日正午、昭和天皇陛下の玉音を伝えるラジオ放送を耳にし、はじめて敗戦の現実を知った。原住民と我々の勝者と敗者の立場が一転し、外地において真の戦争の悲惨を味わい、引き上げまでの難行苦行が始まった。

（中略）

…成人男子の生き残った家庭はやむなく満人のここの家庭へ疎開して、それぞれに使役に労働に商売にと、その日その日の糧を求めてただ生き延びるのが精一杯であった。

（中略）

満州開拓という国策のもとに興和団入植者総数290名中180名の尊い犠牲者と12名の行方不明者を残し、後ろ髪を引かれる思いで100余名の生き残りの団員は、夢に見た故国日本にたどり着いたのである。

### 開拓団（大和町）体験者の手記

私は昭和19年5月に満州へ行き、21年までおりました。当時満州に郡上村をつくるということで、どうしても部落で一人満州へ行けということでした。なかなか行き手がないので、推進委員と班長を選挙で決め、その人たちが中心になって、お寺で10回以上も常会を開き、家がある者でも長男でも、強制的に行かされることになり、私が選ばれました。……満州国は日本がつくったもので、満人は開墾していないところへ追いやって、そこへ日本人が入ったのです。（中略）

昭和20年8月15日の終戦の日、克山の町から5里ほど離れた所へ、米を買い出しに行きました。毎月一回米の買い出しに行っていました。米を受け取ったところで終戦の玉音放送が入りました。満人の馬車を頼んで米を積み、一晩中不寝番をしました。翌日米を船に乗せようと思ったら、一俵5円だった船賃が100円になっていました。日本の巡査はどうにもできず、満人の巡査が船を選んでくれました。（中略）

船が川の真ん中まで来たら、満人の船頭が船を止めて言うことを聞かなくなり、持ち物をよこせと言い出しました。そこで米を一俵やって岸に着けてもらいました。陸へ上がったところで、団から馬車が迎えに来ていましたが、歩いていくとき、満人の子どもたちが唾を吐きかけてきました。（中略）

8月20頃、…新京（長春）まで来て、兵隊官舎に入りましたが、丈夫な人は現地で召集になりシベリヤに連れて行かれましたが、隊から逃げていった人もありました。ロシア人が来て金を出せといいましたが、……ソ連兵は両手を挙げさせ腕時計や万年筆を奪っていきました。



満蒙開拓、琿春開拓団（朝日村役場提供）



拓魂碑（八幡町城山公園）

「生徒にとって身近な題材を教材化することについて」

新学習指導要領の趣旨を実現できるように世界史Aの授業改善を試みた。身近な題材を扱うことで生徒の興味・関心を高めようとしたが、世界史は授業で取り上げることができる身近な題材という点では、日本史に比べるとあまり多くはなく、教材化するには工夫が必要である。

そこで、事例・において、歴史の概観を通じて全体像を把握させてから、生徒の関心を喚起させた。その際、空間と時間の関係（歴史の縦軸と横軸）に留意させ、事例では歴史地図や年表を、事例では、データからテーマ図（統計地図）を作成した。その後、自己作成資料の分析・発表を行い、生徒の関心が身近な題材に向けられるように工夫した。生徒は作業学習を楽しんだり、話し合いを通して多くの意見を持つようになったが、生徒任せにならずに的確に指導ができるという点では、まだ課題が残っている。

事例・においては、学習指導要領の「日本の高校生の学ぶ世界史」を「郡上の高校生が学ぶ世界史」と置き換えて、郡上発信の世界史授業を実践した。国際理解を深めるためには、自国の歴史・文化の理解は欠かせないので、日本史との類似性を意識しつつ、「馬」と「満州開拓団」を題材としてみた。事例では、中国北方の遊牧世界と岐阜県の郡上地域を、「馬」を媒介にしてダイナミックに結びつけ、遊牧民の生活や農耕社会への侵略について考察を深め、事例では、地域の視点で戦争を見つめ直すことを目指した。生徒は興味・関心を示したが、豊かさに慣れた現代の高校生には戦争を実感するのは難しかった部分もあったようである。

以上4つの事例案を提示したが、取り上げた題材にはある程度工夫はできたものの、新しい課題である評価の方法やそれをいかに指導にフィードバックするかという点や、生徒が主体的に学ぶことができる学習を実現するという点については、まだまだ課題が山積しているといえる。

ただ、事例・の実践では、「郡上踊り春駒の謎」・「平家物語の磨墨は本当に郡上の産か？」・「郡上高校校訓エピソード」・「中国残留孤児がなぜ誕生したのか」・「日本と騎馬民族国家」など、地域的话题を確実に教材化することができた点で、大きな収穫があった。